

Q10 不登校が続いており、本人は高校での学校生活を具体的にイメージできていませんが、保護者が高校への進学を強く望んでいます。どのように対応すればいいでしょうか。

現 状

- 1 本人は、中学校での不登校や学業不振のため、高校での学校生活に対する自信をもつことができないことがある。
- 2 高校進学についての本人と保護者の意志が異なるため、中学校での対応が難しい場合がある。
- 3 高校受験に対する不安から現実逃避的になり、高校進学をあきらめることもある。

考えられる対応例

- 1 教育相談を継続し、生徒と保護者の間で進路に関する希望のずれがあることを理解させ、両者が将来の夢や高校生活での具体的な目標について話し合うよう、促すことが大事である。保護者は、高校だけは出ておかなければという焦りから、本人の希望よりも自分の希望を優先させることも予想される。中学校では、生徒本人の希望を確認し、保護者に的確に伝えることが必要なこともある。
- 2 中学校で不登校が続いていたことから、進路指導が計画的になされていないことが予想される。生徒本人との教育相談の中では、自己理解、適性、将来の夢、高校での目標などをじっくりと話し合うことが大事である。
- 3 本人が、高校説明会や学校見学会などに参加することができなかった場合は、高校に直接資料を請求したり、時間を見つけて学校見学に行ったりして高校での生活を具体的にイメージできるようにすることが大事である。
- 4 兄姉や近所の知り合いに高校生がいれば、高校での学習や学校行事、部活動などについて具体的に話を聞かせ、高校生活に対する理解や希望を膨らますことができるようにすることが大事である。

児童生徒の社会的な自立のために学校教育、家庭教育はどうあるべきかを常に考え、単に学校を卒業すれば当該学校の責任を果たしたことにはならないという意識で、生徒自身の自己実現のために小学校、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校がそれぞれどのような進路指導をしなければならないか学校全体で検討する必要がある。

